



マイレボTALK

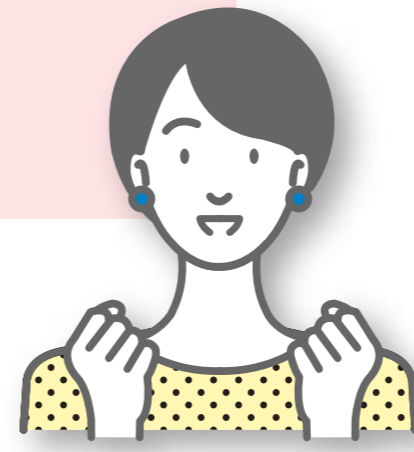
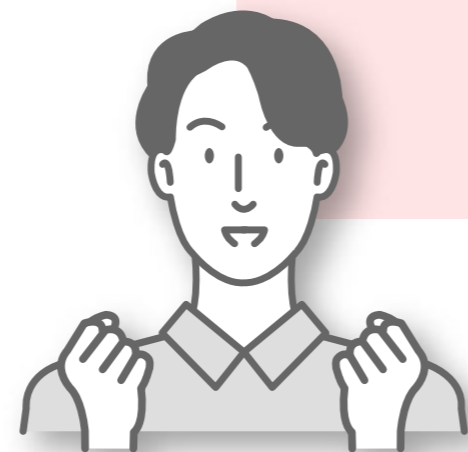
MY HUMAN REVOLUTION



第8巻 「宝剣」の章

3月の青年部幹部会のテーマ

「一人立つ青年の連帯
師のもとから誓いの出発を！」



「宝剣」の章の舞台 1963年

山本伸一は青年部の育成に全力を注いでいた。戸田先生の7回忌である64年以降から「**本門の時代**」に入ると宣言

※法華経28品のうち、前半14品は迹門、後半14品は本門といわれる。迹門はいまだ理論上の教えにすぎず、伸一は、広宣流布の本格的な展開の時代を「本門の時代」と表現した。 (96~97ページ、趣意)

山本伸一

〈京大生への「百六箇抄」講義。「立つ浪、吹く風、万物について本迹を分け、勝劣を弁すべきなり」（新 2218・全 869）の箇所で〉

「立つ波、吹く風、いっさいの現象について、本迹、勝劣を立て分けていきなさいという御文です」

「『本迹』を個人の一念に要約していえば、『本』とは原点であり、広宣流布への一念です。また、前進、挑戦の心です。『迹』とは惰性であり、妥協、後退です」
(148~149 ページ)

心の「迹」を破り、「本」を現す

講義後、結核の療養のため入院していた中野恵利子は、自分を振り返りハッとした。`私は、広宣流布に生きようと決め、人にもそう訴えながら、どこかで、学会活動から逃げたいと思っていなかっただろうか……`。

「仏壇を揺さぶるような、懸命な唱題が続いた。退院から三カ月後、肺の影は、すっかり消えていた。大学に復学し、再び元気な姿を見せるようになった。中野は自身の心の『迹』を破り、『本』を現していったのである」

(153 ページ)

自分が一人立つ

〃広宣流布への一念、こそ本門の弟子の要件である。こう指導する伸一は、青年の心構えについても語っています。

「まず、広宣流布を推進する責任は、自分にあるということを決意していただきたい」 (111 ページ)

「事態が厳しければ、自分が一人立つ——常に、私はその精神でやってきた」 (115 ページ)

「学会を守ること」が「師匠を守ること」に

さらに、会長である伸一を守りたいと決意する青年に対して、次のような言葉を掛けました。

「学会を離れ、会員を離れて、私はない。もし、君に少しでも、私を守ろうという心があるなら、学会の組織の最前線を走り抜き、会員を守ることです」 (157 ページ)

本門の君たちに託したい

「今再び、我らの前には『大いなる広布の山』がある。学会創立百周年の二〇三〇年へ、さらに二十二世紀の民衆勝利を開くために、越えてゆかねばならぬ山だ」

「この山を登攀とうはんしたならば、見える限りの世界がすべて君たちのものだ！
その所願満足の歓喜の法戦こそ、無上道の人生であり、青春であるがゆえに、私はすべてを本門の君たちに託したい！」

(随筆「人間革命」光あれ 聖教新聞 2021年10月14日付)

「ゝ出でよ、幾万、幾十万の山本伸一よ！ゝ」

(96 ページ)

常に青年に期待を寄せてくださっている師のもとから挑戦を開始し、地域の隅々にまで、友情と真心のネットワークを張り巡らせていきましょう！